

図書館の動き

宇治地区に附属図書館分館スタート

宇治地区の五研究所共通図書室は、平成12年4月1日から附属図書館宇治分館として新たにスタートしました。

今年は、五研究所図書室が発足して30周年の節目にあたり、分館に発展することで、将来に向けた展望を見いだしていきます。

分館では、宇治地区共通図書室を創設した精神を継承して、宙空電波科学研究センター、工学研究科、エネルギー科学研究科、情報学研究科、さらに自然科学系の関係機関へと、全学的な観点から研究支援を強化すべく作業を進めています。

中国書のデータ入力開始

平成12年度文部省大学図書館関係予算の図書館機能高度化経費に、総合目録構築経費が新規計上され、本学に約1200万円が分配されました。これは、中国語図書のデータ入力のための経費であり、今年度から附属図書館、文学部、人文科学研究所等で入力作業をする予定です。

名称変更のお知らせ(平成12年4月1日付)

(学外) 学術情報センター 国立情報学研究所

(学内) 人文科学研究所附属東洋学文献センター 人文科学研究所附属漢字情報研究センター

目次

経済学部の古典文献に思う	1
『お伽草子 物語の玉手箱』展に触れて	4
京都大学図書館百年 思い出すままに 1972(昭和47)年の経済学部図書室の移転	6
青年海外協力隊に司書として参加して	8
文学部図書室紹介	11
京都大学図書館外部評価報告について	12
附属図書館資料紹介 沢山の寄贈図書が書架に並びます 片田文庫について	13
教官寄贈図書一覧	14
図書館の動き	16

編集後記

21世紀に向けて、大学全体が大変な年になりそうです。図書館にとっても、いよいよ、大きな波が押し寄せてくるでしょう。昨年の外部評価から図書館組織の問題をはじめ、学術資料とサービス、特に電子ジャーナルの問題など具体的に考えなければならない時期にきています。また、今年は京都大学で電子図書館国際会議も予定されています。ますます、図書館活動の広報が重要になってきました。(G)